

20180314_農業ビジネス研究会_議事録

日 時：2018年3月14日（水）19:00－21:00

場 所：東京／池袋「バー クオーレ」

テーマ：農産物の輸出ポテンシャル ～日本ワイン×ドライいちじくのマリアージュ～

発表者：九品仏のこだわり酒店「旭屋酒店」さん

参加者：15人（発表者を含まない）

（NPO 法人理事長、会社経営、自営業、会社員、公務員、社会保険労務士、
行政書士、司法書士など）

メモ（文責、書記者）：

2018年秋、国税庁が「日本ワイン」（日本産のブドウが100%使用され、日本国内で製造されたワイン）の基準を施行します。このブランドによる輸出を狙っているようです。今まででは、業界団体による「国産ワイン」という表記がありました。こちらは、一部でも日本産のブドウが使われていれば名乗ることができました（00%使用と表記）。とはいえ、「日本ワイン」と言っても品質の保証はしていません。ですので、まだまだ当たりはずれなどばらつきがあります。

また、「いちじく」は愛知県が国内生産量第1位です。東京圏のスーパーなどに少し高級な食材として卸されています。女性のニーズが高いわりに、農家の関心は低いです。いちじくが農家の庭で自生していることが影響しているようです。とすると、「こだわりいちじく」などビジネスの可能性があるのでないかと考えさせられます。

（この後、日本ワイン×ドライいちじくのマリアージュを楽しみました。冷凍いちじくがたいへん好評でした）

以上